

第7回

三原ふるさと子ども博士講座

ようこそ先輩！絵本作家永井郁子先生

平成24年10月8日（月）に中央公民館で行われた「第7回三原ふるさと子ども博士講座」、今回は講師として、絵本作家の **永井 郁子** 先生にお越しいただきました。

永井先生の指導のもと、三原の昔話『おじぞうさんと二十三夜まつり』を10の場面に分け、それぞれのシーンにあった絵を考えて実際に絵を描くという本格的な絵本づくりを体験しました。

永井 郁子 ながい いくこ

本郷町出身。

「わかったさんのおかしシリーズ」

「かいぞくポケット」など、多くの絵本イラストを手がける。

2009年には三原市ふるさと大使に任命され、三原の子どもたちのために精力的に公演を行っている。

『おじぞうさんと二十三夜まつり』

本郷の二十三夜祭（現在の沼田本郷夏祭り）が始まった元となったお話。むかしむかし本郷村で、米の不作と病気の流行があり、多くの村人が亡くなりました。尼寺の尼さんはこれを供養するため、各地をめぐり寄付を集め、下市と上市の地蔵を建立しました。それ以来、不作と病気の流行はなくなり、おだやかな暮らしができるようになりました。本郷では毎年7月23日前後に、二十三夜祭りが行われるようになりました。



『おじぞうさんと二十三夜まつり』のお話を朗読する永井先生



まずは下書き用紙を使ってイメージをうかべます。
うまく描けるかな？



一人一人に声をかけて、
絵本作りのアドバイスをする
永井先生



実際にご自分で絵を描いて
手本を見せてくださいました。
さすがに、ものすごく上手！



約2時間かけて、絵が完成しました！
はじめはみんなとまどっていましたが
描いているうちに楽しくなっていた
様子でした。



出来た絵の10場面をひとりずつ
朗読して、一つのお話が完成です。
みんな上手く発表できていました！



最後に集合写真をパシャリ！
永井先生、どうもありがとうございました！